

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3771500752		
法人名	医療法人社団 有隣会		
事業所名	グループホーム さくら		
所在地	香川県綾歌郡綾川町滝宮557-5		
自己評価作成日	平成26年7月31日	評価結果市町受理日	平成26年11月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/37/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JiryousoCd=3771500752-00&PrefCd=37&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号
訪問調査日	平成27年9月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>医療機関が隣接している為、医療連携、協力が受けやすい。入居者様の状態により院長往診や訪問看護による医療を必要に応じて受けることができる。また、理学療法士や作業療法士・管理栄養士による訪問リハビリや訪問栄養指導を受けることができる。</p> <p>また御家族の方と毎月また随時、入居者様の状況を電話連絡や面会時にお伝えしたり、詳しい利用者状況をお便りとして個別にお渡しし対応している。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

<p>当事業所は、閑静な住宅街に位置している。運営母体が医療法人であり、利用者の健康管理が常にできており、状態急変時にもスムーズな対応ができています。また、隣接する同法人の医療機関や事業所との連携もよく、他の専門職とも必要時話し合う機会をもち、利用者により良いケアが提供できるよう努めている。利用者やその家族等は安心して毎日を過ごしている。2か月毎の運営推進会議では事業所の現況や取り組みを報告し、メンバーと話し合いそこの意見や提案等をサービス向上に活かしている。また、会議には有識者として精神科医師が出席し、認知症相談についての取り組み等の話もあり有意義な会議となっている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「平等・尊厳・恩愛」を理念とし、ご利用者のその人らしい暮らしを支援するため、日々のケアの場面で情報を共有し、具体的な理念の実践に取り組んでいる。支援の質の向上に努めている。	法人全体の理念をもとに、職員全体で決めたグループホームさくらの6か条「安全・協力・迅速・清潔・誠実・笑顔」の中から、今年度の目標を「笑顔の介護」とし、毎日のケアに活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の小学校の運動会などの行事に参加し、地域との交流を図っている。ご利用者の作品を郵便局に展示し、地域の方々に見ていただいている。ご利用者は、毎年工夫をこらして作品を作っている。	地域の小学校の運動会に招かれたり、地域の清掃活動に法人全体として参加している。毎年6月頃に地元の郵便局に利用者の作品を展示し、地域の方々に見てもらい、事業所を知ってもらう機会にしている。運営母体である医療法人の主催で、毎年ゲートボール大会を開催し、その後で介護教室を開催し、地域の方々と交流している。	積極的に地域との交流が行われているが、利用者の生活の質を向上させるために必要な具体的なボランティア活動を検討し、運営推進会議参加者やコミュニティセンター等の協力を得て募集するなどの取り組みを期待したい。また、介護教室や介護相談など、法人として地域に対して貢献できる取り組みを検討し、運営推進会議を通じて、地域に提案するなどの取り組みにも期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 http://www.kaigokensaku.jp/37/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=3771500752-00&PrefCd=37&VersionCd=022	地域のゲートボール大会に、有隣会各事業所から参加し、地域の方と交流を深めている。そこで、施設概要や支援方法について紹介をしている。また、地域の溝掃除に参加するなど、地域の一員として交流に努めている。毎年6月頃には、地元の郵便局で有隣会合同でご利用者の作品を展示している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2カ月に一度開催しており、グループホームの現状や取り組みをスライドを使って報告し、情報交換や参加者からの意見、助言を頂く機会を設けている。運営推進会議でのご意見やご指導を今後の課題とし、運営の改善やサービス向上に活かせるよう取り組んでいる。	2カ月ごとに運営推進会議を開催し、地域の方、利用者の家族、町担当者、有識者等が参加している。事業所の現況や取り組み等、具体的な課題を話し合い、地域の理解と支援を得て、サービス向上に活かすよう努力をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所は、町の担当職員と運営推進会議以外にも、相談や意見交換をして、連携が取れる関係作りに努めている。今後もより一層、市町村への協力体制をお願いしたい。	市町村担当者とは日頃より連絡を取り、運営推進会議以外においても、相談や話し合う機会を持つなど、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束に対して、ご利用者が受ける身体的・精神的弊害について理解するように努め拘束のないケアをめざしている。生命保護等以外の目的では、身体拘束を行わないように努めている。また、戸締りについても利用者の安全を確保し、出来るだけ開放的な環境作りに努めている。法人で月に1回、身体拘束委員会を開催し、勉強会や検討を行っている。	毎月開催している研修会で、身体拘束の内容とその弊害について認識し、日々のケアの中でも必要時にその都度話し合い、身体拘束のないケアの理解と実践に取り組んでいる。職員は、利用者がその人らしく、抑圧なく暮らせる環境作りに努力している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法について勉強会を行い、職員間で理解を深めている。ご利用者に対しての言動や対応に注意している。また、朝のカンファレンスなどでご利用者対応(声かけの仕方や対応)について検討している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、ご家族やご利用者に説明をしている。また、相談があったときには、介護支援事業所に相談できる体制にある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の前には、ホームの見学をしてもらったり、こちらから訪問をして、直接お会いし十分に説明を行い、理解・納得してもらっている。また重要事項に変更等があった場合は、その都度書面にて詳しく説明を行い、同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃の面会時や家族会等で集まる機会に、ご利用者やご家族の意見・要望を聞くようにしている。苦情・相談窓口を設置し、24時間体制で対応している。	年2回開催している家族会で、アンケート調査を実施している。また、家族等の面会時に意見や要望等を聞く機会を持ち、意見や要望等を運営に反映させる努力をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のカンファレンスや必要時には、スタッフ間で臨時のカンファレンスを開くようにして、スタッフの意見を聞けるように配慮している。	毎月のカンファレンスや申し送り時に職員から意見や提案があったり、困ったことを記載するノートに意見の記入があれば、職員と話し合う機会を持ち、職員の気づきやアイデアを運営に反映させるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	職員の得意分野や不得意分野を職員に確認し、得意分野は、業務の中で、努力して積極的に取り組み、やりがいが持てるように職場環境を整え、指導を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	2カ月に1回、法人全体会議があり、年間計画書にそって研修を実施している。新人研修についてもチェックシートを用いて評価している。できていないところは、介護技術を身につけるよう指導しており、職員が自信を持って仕事ができるよう取り組んでいる。管理者と職員で意見交換しながら取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2カ月に1回の法人全体会議では、薬局の方による薬の勉強会や他職種の方との意見交換や勉強会などの機会を設け、サービスの向上に努めている。他部署の方と意見交換や、交流を持つ事で日頃の仕事上の悩み等の解決や、緊急時の連携の強化に繋がりが、サービスの質の向上にも繋がっている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の前には、ご本人やご家族にホームを見学してもらっている。また、管理者や計画作成担当者が必ず訪問し、「さくら」での生活の意向をご本人やご家族から聞きとるよう努めている。常にご利用者の意見要望に耳を傾け、安全を確保した上で、サービスを検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に必ずインテークを行い、現在の状況や意向を聞き、ご本人・ご家族共に納得、理解できるように働きかけ、より良い関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の見学、情報収集、他の事業所のケアマネジャーとの連携を行い、入居判定委員会を必ず開催し、他職種から意見を聞き、入居時のサービスを検討している。リハビリ等が必要な方は理学療法士とも連携をとり、福祉用具等も助言を頂きながら、ご家族の了解を得て購入している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員とご利用者は、介護する、介護をされるといった、一方的な関係ではなく、共に同じ時間を過ごし支えあったり、学びあったりする中で、お互いに信頼関係を築けるようにつ努めている。お寿司の作り方や野菜の植え方など、スタッフが逆に相談したり、助けてもらう場面があり、双方で支えあって生活できるように心かけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会や季節の行事などに参加を募り、常に信頼関係が築ける機会を設け、何かあればすぐに電話で連絡・相談するなど、ご本人を共に支えていくよう努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	「誰かと会いたい」などのご利用者の希望があれば、可能な限りなじみの関係が途切れないよう、面会の支援や電話連絡の支援を行っている。面会時の対応についても支援している。	利用者の希望や思いを大切に、家族と協力しながら馴染みの関係が途切れないようにしている。また、利用者に友人等の面会があれば、交流しやすいように支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士が孤立しないように午前、午後に体操やレクリエーションを取り入れ、閉じこもり、孤立を予防している。また、おやつや食事など基本的にホールで一緒に食べるようにしている。また、ご利用者同士が自由に互いの居室を訪れるような支援や配慮に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も、時々電話連絡をして状況を聞いたり、訪問している。ご家族とお会いしたら、現在の生活状況を聞き、相談や支援に心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の生活歴やなじみの暮らしを理解し、畑仕事が好きな方には野菜の苗植えを一緒に手伝ってもらったり、生花をされていた方にはお花を生けていただいている。また、自分から意見や要望を訴えられない方には、こちらから質問したり、質問方法を変えて希望や意向の把握に努めている。	日々の暮らしの中で、利用者一人ひとりの思いや希望を大切に、個々の思いや意向に寄り添えるようにアプローチを工夫し、日々の行動や表情から把握するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の状況はきちんと把握し、生活歴や馴染みの暮らしをご本人やご家族から聞き、出来るだけサービスに取り入れるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	随時、ご利用者の心身状況・認知度・身体レベルについて話し合いを行っている。変化して行く状況の評価し、状態にあった対応ができるように努めている。出来ることを見つけて、少しでも参加してもらえるように取り組んでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議やミニカンファレンスなどを設け、ご本人やご家族の意向を取り入れ、その都度検討し、対応している。毎月のモニタリング、定期的にあセスメントし、ケアプランを見直し、適切な支援を行うようにしている。また、他職種の方とも連携をとり、リハビリが必要な方には主治医や理学療法士に相談し、意見交換を行い、生活の中に取り入れている。食事については、管理栄養士に相談し、助言を受けている。	利用者の担当職員を決めている。利用者や家族の意見や意向を聞き、担当職員がアセスメントを行い、サービス担当者会議やカンファレンス等でケアのあり方について関係者間で話し合い、介護計画を作成している。定期的にあセスメント、モニタリングを行い計画を見直している。また、状況が変化した場合は、随時計画の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者個別対応マニュアルを作成し、スタッフ全員が情報を把握できるように努めている。また、日々の状況やご家族とのやり取りを、支援経過に記載をしている。情報を共有し、継続したケアが提供出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族のその時の状況に応じ、共通のサービス以外も臨機応変に必要なサービスの支援に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事の際には、ボランティアの方をお招きし、お茶・バルンアート・よさこい踊りなどを見学し、外部との交流が行える機会を設けている。また、小学校の運動会や盆踊りに参加し、地域との交流が出来るように心がけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に月2回かかりつけ医の往診がある。他科受診は、ご家族と連絡を取り合い、受診がスムーズに行くよう事前に他の病院、事業所と連携を取っている。また協力医療機関の説明をし、適切な医療が受けられるように働きかけている。また、歯科往診は、近隣の歯科医と連携を図り往診を依頼している。	協力病院が利用者全員のかかりつけ医となっており、月2回往診があり、健康管理が適切に行われている。他科受診には、家族と連携を取り、情報交換を行い、スムーズな受診支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内の看護師への申し送りを必ず行っている。毎朝、隣接している溝渕クリニックから看護師の巡回があり日々の状態を報告している。また、訪問看護が入る場合は、訪問時に状況報告を行い、主治医との連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関が隣接しているので、急変時にはすぐに受診・相談でき、必要に応じて入院するなどの適切な処置を行っている。入院中もご家族や医療機関、主治医と連絡を取り合い、情報交換を行い、ご利用者が安心できるよう出来る限りの配慮をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期対応方針を作成し、入居時家族に意向確認をしている。また状態が悪化した場合は、再度ご家族の意向を確認し、隣接する医療機関とも内容を共有し、協力して対応できる体制にある。また、施設内での急変時の緊急連絡や対応や看取りについても検討し、方針を立て、職員間や医療機関との連携が図れるようにしている。	事業所作成の終末期対応方針に沿って、入居時に家族等に意向を確認している。状況の変化に応じて話し合いをし、意向の確認を行い、かかりつけ医とも情報を共有し、協力できる体制にある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人全体会議で、緊急時の救命法など講習会を適宜開いている。急変時の応急処置や連絡方法について職員間で勉強し、統一している。また、AEDを施設に一台設置し、取り扱い方法について講習を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人全体での防災訓練を年2回行い、法人全体で避難活動ができるように防災計画を作成している。職員の緊急連絡簿を作成している。備蓄品を準備している。また、地震・豪雨といった自然災害について、施設内での具体的なマニュアルを再検討している。	法人全体で年2回防災訓練を実施しており、夜間想定も訓練も行っている。法人全体で、防災計画を作成し、協力体制を築いている。また、緊急連絡簿を作成し、職員間の連絡体制を整備している。食料等は、3日分を備蓄している。	避難した利用者の見守りなど、地域に協力をお願いしたいことを具体的に示し、地域の協力が得られるよう取り組まれることを期待したい。また、水害や震災想定をした避難訓練の実施や施設設備の震災対応状況を確認するなど、今後の取り組みに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人全体会議や各ユニットにおいて、定期的にプライバシー保護について研修やカンファレンスを行い、話し合っている。また、尊厳という理念のもとに、その人に合わせた対応や言葉かけをするようにしている。入浴は一人ずつ行い、トイレ誘導時の声かけや居室でのオムツ交換などの際に、羞恥心を考え、声かけに気をつけている。命令口調にならないように、ご利用者を主体とした関わりを持ち、言葉かけに気をつけている。	利用者のその人らしさを大切にプライバシーの確保について、職員間で徹底するために、法人全体で研修会を開催し、各ユニット毎で話し合ったりしている。利用者個々にあった、それぞれの対応の仕方等について、具体的に確認している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者からの意見や思いに耳を傾け、出来るだけ日常の中で尊重できるよう支援している。自分から思いを伝えられない方には、職員から質問を工夫しながら、意志を引き出せるよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間に食欲が無く欲しくない時には、食事時間を遅らせたり、居室で休みたいと言う訴えがある場合は、状態をみながらご本人の意思を尊重しながら対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に一度、希望を聞き、外部の美容師により散髪を行っている。くしや髭剃りなど、身だしなみを自分でできるように、居室に配置するなどの環境整備に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の嗜好を献立に採り入れている。皮むきや配膳などは、ご利用者の能力や状態を把握し、家事への参加を支援している。食器や盛り付けに工夫をしている。定期的に、おはぎやお寿司、お好み焼きなどを一緒に調理している。家族会や茶話会時には、一緒に食事やお茶をしながら、食事を楽しむことができるよう支援している。日頃は、ご利用者の方の安全を第一に考えた食事介助を行っているため、職員は、一緒に食事をとらず、見守りを優先している。	利用者の嗜好を考慮しながら、1日3回の献立表を作成し、必要物品の発注から調理まで、職員が当番を決めて行っている。利用者は、野菜の皮むきや配膳、コップ拭き等、個々にできることを、職員と一緒にしている。食事介助や見守りを優先しているため、職員と一緒に食事をしていないが、楽しく食事ができるよう声かけ等をして、支援に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量を記録し、一人ひとりの状況を把握している。自分から水分摂取が出来ない方には、一日に必要な水分量を決め、こまめに水分補給が出来るように気をつけている。また、管理栄養士の意見、指導により、栄養バランスに気を配っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは、歯ブラシやうがいなど見守りや声かけにより行っている。また、ご本人の希望や義歯の状態により、近隣の歯科医師に往診を依頼し、その都度治療を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人の排泄パターンを把握し、自立に向けて、できるだけトイレでの排泄が行えるよう早めに誘導するなど、個別に対応している。また、必要に応じて安全を確保した排泄が出来るよう、夜間のみ居室のポータブルトイレを使用するケースもある。	利用者個々の排泄パターンを把握して、声かけやトイレへ誘導するなど、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や食物繊維が多いメニューをとり入れたり、水分をこまめに摂取できるように心がけている。便秘気味の方には腹部マッサージを行っている。また、排泄状況を観察し、医師との連携を図り、便秘薬や緩下剤を服用し、内服にて排便のコントロールをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は一人ひとりのプライバシーを守りながら、ご利用者に合わせて安全に入浴できる方法を取っている。(湯の温度・入り方など希望を聞いている)また、汚染時は、その都度、入浴・又はシャワー浴・陰部洗浄・清拭等をして、清潔を保持している。体調の悪い方は、時間や曜日を変更している。入浴は、3回/週実施している。	入浴は週2～3回午前中に行っている。利用者が入浴を拒む時には、言葉かけを変えたり、入浴の順番や時間を変更するなど、対応の仕方を工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息時に安眠しやすいように居室内の環境を整えている。また、読書や塗り絵などの個人作業や日中の集団レクリエーションの活動量を増やしたり、メンタル的にも、夜に向けて安定するように雰囲気作りをしている。不穏になり帰宅願望などが聞かれる方には、ゆっくりと話を聞き、安心して休めるように働きかけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効能・副作用などは、薬の説明書を読み把握に努めている。また、誤薬に繋がらないように、毎食後の服薬には、名前を声に出し、職員二人で再度チェックをしている。また、飲み忘れがないかは、食事介助に付いた職員が確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりのADLや認知度を把握し、出来る事を見つけ、家事参加やレクリエーションなどを行っている。レクリエーションでは、体操や歌、ゲームなど、ご利用の方が楽しんで参加できるような内容を考え、実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候の良い季節などは、少人数でマンツーマンで付き添い外出を支援している。今年度は、滝宮天満宮、道の駅、菖蒲園などに出かけ、ご利用者の方の気分転換が図れた。また、中庭などの散歩を、個別にとり入れている。ホーム内での生活を第一に考え、閉鎖的にならないよう配慮している。自宅に帰りたい方には、ご家族に連絡を取り、外出の連携を図っている。	毎日の生活の中で、近所に散歩に出かけたり、事業所内の中庭に出て、野菜や花に水をやるなど、短時間でも戸外に出て、外気に触れる機会を作るようにしている。また、季節ごとに外出をして、利用者の気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則として、預かり金は、預かっていない。自己管理できる方は、お金を所持している方もおられる。ご利用者個々にあわせて、お金を持っておきたいという希望があれば、ご本人やご家族と話し合い、検討している。また、希望に応じて使用を支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	連絡を希望された時は、必要に応じて、電話連絡を支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビの音量やまぶしさ、温度などの管理をしている。トイレや浴室などは、分かりやすく表示している。ホール内の掲示も、季節感が味わえるようにレクリエーションの中で作品を作り、カレンダーなどを作っている。施設内を安全に移動できるよう、環境整備に努めている。	共用のホール、廊下等はゆったりとした広さがある。ホール前には中庭があり、明るさ等にも配慮されている。利用者は、面会者等と一緒にゆったりと居心地よく過ごせている。また、ホールの掲示物は、利用者と職員が一緒に作成しており、季節感を感じることができる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファを配置し、気軽に休息できるスペースを配置している。また、ホールで休みたい方には、枕や掛け物を配慮するよう心がけている。ご利用者間でも居室を訪問し、楽しく談話されたり、廊下の涼しいところに集まれるよう椅子を移動するなど、生活しやすいよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に持ち込める家具類は、基本的に自由であり、昔なじみの家具を持ってきてご利用者もいる。用途に合わせ、ご利用者が使用しやすいものを持参してもらえようアドバイスを行っている。また、転倒リスクのある方は、居室内の配置を工夫している。	居室は利用者個々が希望するものを持ち込むことが可能で、それぞれの利用者が居心地よく過ごせるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立歩行の方は、履きやすい靴を履いているか、床などに水がこぼれていないかを確認している。居室内は、配線やセンサーマットをガムテープで固定し、つまずいたりしないようにしている。車椅子や補助具を安全に使用できるよう十分気をつけている。また、居室内の押入やタンスの整理を定期的に行い、取り出しやすいよう工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価結果

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
I. 理念に基づく運営			
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は、ご利用者のその人らしい尊厳ある暮らしを支援するために、日々のケアの場で共有し具体的な理念の実践に取り組んでいる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年恒例の小学校の運動会を見学したり、郵便局に作品を展示している。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 http://www.kaigokensaku.jp/37/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=3771500752-00&PrefCd=37&VersionCd=022	地域のゲートボール大会に参加し、グループホームの理解を深めたり、地域の溝掃除に参加するなどして交流に努めている。毎年、有隣会の各部署の作品展示を行っている。
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議を行っている。出席者からの意見や指導を今後の課題として、運営の改善やサービスの向上に役立てるように取り組んでいる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所は町の担当職員と運営推進会議以外にも、相談や意見交換をして連携が取れる関係作りに努めている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は、ご利用者が受ける身体的、精神的弊害について理解し、拘束のないケアの実践を目指している。徘徊傾向のあるご利用者がいる場合は、ご家族の了解を得て、玄関の施錠をしている。戸締りについてもご利用者の安全を確保しつつ、開放的な環境作りに努めている

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や、職員同士が声掛けや介助方法への助言等をお互いにしている。出来ていない箇所は改善出来るように指導している。
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について学びご家族(ご利用者)に説明をしている。また、相談があった時には、近隣の介護支援事業所に相談できる体制にある。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の前には必ずホームの見学をしていただき、十分に説明を行った上で、納得して契約を結んでいる。
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段の面会時や家族会等の機会に意見、要望等のアンケートを取り、運営に役立てている。職員の接遇面の向上など施設で取り組みをしている。苦情相談窓口を設置し、24時間体制で対応している。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り時に職員の意見を聞いたり、その他、個別にも聞いて職員の意見や提案をすいあげて、改善して行くように取り組んでいる。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員それぞれの得意分野を生かすような職場環境を考えている。やりがいをもって仕事出来るように常に考えている。
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	2ヶ月に一度、有隣会全体会議があり、その中で随時研修を行っている。新人研修についてもチェックシートを活用し、苦手分野のある職員には、根気強く指導し、自信を持って仕事出来るように取り組んでいる。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に一度の有隣会全体会議で薬局の方の薬の勉強会に出席したり、他の職種の方と意見交換の機会を持ち、あらゆる分野から知識を得てサービスの向上に役立っている。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の前には施設の見学をしてもらい、事前に管理者が訪問し、アセスメントを行いご本人の生活への要望を聞いたり、安心して生活できるように信頼関係を作れるように取り組んでいる。
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で、ご家族等の要望を聞いて、サービス計画書に取り入れるようにしている。
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時には必ず、アセスメントを行い、サービスに役立っている。さくらに入居する場合は必ず入居判定委員会を開き、他職種からの意見をもらうようにしている。
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者よりそいあう関係を目指し、隣に座って話しをしたり、お互いに話しをして信頼関係を築き上げるように取り組んでいる。
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会やさまざまな行事を案内して、ご家族とも信頼関係を構築出来る様に取り組んでいる。何かあれば、電話等で連絡や相談を行い、共に支えていけるようにしている。
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人がこれまでに培ってきた人間関係や社会との関係を継続して持てるようにご家族の協力を得て、外出の機会を設けたり、さくらに訪ねてきてもらったり双方の関係が取れるようにしている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士が孤立しないように午前、午後と集団レクリエーションを取り入れて、閉じこもりや孤立を予防している。
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も時々電話連絡をして状況を聞いたり御ご家族の方とお会いしたら会話をしして体調を気遣うような声掛けをするように心がけている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の話しを聞く事、要望やどういった事を希望しているかを聞いて、ケアマネジメントに役立てている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の状況を把握し生活歴や馴染みの暮らしを聞いてサービスに取り入れるようにしている。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りで、その方の心身の状態や過ごし方について意見交換をして、日々取り組んでいる。
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の意向やご家族の意向を面会時に伺い、サービス計画書に取り入れるようにしている。計画書を立てる前には、サービス担当者会議を開き、幅広く意見を聞いて取り入れている。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎朝の申し送りを大事にして、ご利用者の変化や職員の気づきを日々のケアに役立てる用になっている。対応で変わった点は申し送りノートを利用し、職員に周知している。日々のケアやご家族とのやり取りに関しては支援経過に記載している。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況に応じて、共通のサービス以外にも臨機応変に柔軟なサービスを取り入れている。
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	夏祭り等の行事の際には、踊り子さんと呼んで踊りを見たり、ボランティアの方を招いたりして、地域の方とも交流を持っている。毎年、小学校の運動会を見学しに行っている。大変喜ばれている。
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	他の病院(歯科・整形等)受診時にはご家族の方と連絡をとり、かかりつけ医の受診をすすめている。それ以外の場合はご本人やご家族の方が納得の上で病院受診を行っている。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝、隣の溝淵クリニックから看護師が来て、申し送りを行っている。また、訪問看護が入っている場合には訪問看護師に状態を伝えて指示をもらっている。
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関が隣接しているので、急変時にはすぐに受診し、相談し、場合によっては入院するなど適切な処置を行っている。入院中もご家族や医療機関、主治医と連携を取りあい、情報交換や相談に応じている。
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期対応方針を作成し、入居時にご家族に意向を聞いている。また、食事が取れなくなったりした利用者には、ご本人やご家族の意向を確認し、主治医、ご家族を交えた話し合いの機会を持つ様にしている。隣接する医療機関とも内容を共有し、協力体制にある。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人の全体会議にて、緊急時の救命方など講習会を開いている。急変時の応急処置や連絡方法について、職員間で勉強し統一している。AEDを施設に1台設置し、取り扱い方法について講習を受けている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人全体での防災訓練を年に2回行っている。今年は、救護マットを購入し、他部署の方の協力を得て、搬送する訓練を行った。また、消防への通報の仕方をデモで実践した。今年度は備蓄品の入れ替えを行っている。新しい職員には備蓄品の場所を実際に見てもらい災害時には活用出来る様になっている。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳という理念のもとにその人に合わせた対応や言葉かけを行っている。トイレ時の声掛けや、居室でのおむつ交換時は、ドアを閉めて行うなど羞恥心に配慮した声かけを行っている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	マッサージを受けたいというご利用者には、隣のクリニックにマッサージの機械があるので行っている。階が異なるが、1階のご利用者と話しがしたい方には職員が連れて行き話す機会を設けている。外出や外泊の希望者には体調を見て先生の判断の下、支援している。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事が欲しくないとされるご利用者には、体調を見て問題がなければ、時間をずらして対応したり、外出予定を組んでいても、ご本人の意思を尊重し拒否がある場合には訴えを聞いて、柔軟に対応している。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1度、美容師を頼み希望を聞きながら行っている。身だしなみを自分でできる人には、洗面台にくしや、歯ブラシ等をおいて、自分で出来るように支援している。
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おはぎ作りなど、ご利用者の好きなものを行事等に取り入れて一緒に作ったり、野菜の皮むきやじゃがいもをつぶすなどの作業を、手伝ってもらっている。あと片付けの食器拭きも毎日手伝ってもらっている。食事は病院の方針としてご利用者の誤嚥等を防ぐ為、一緒にはとっていない。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量が少ないご利用者にはエンシュア缶を往診時に処方してもらい、毎日の必要な水分量を記載し伝えるようにしている。それでも少ない場合はアクエリアスなどを飲みやすい様にゼリーにして飲んでもらっている。こまめな水分補給を心がけている
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは1日最低2回(朝、夕)に見守り声掛けによってしている。口の中に水分を含んだままになるご利用者もあり、横になる場合には口腔ケアを行ってから居室に誘導をするようにしている。
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中や夜間帯の失禁状況等を見て、可能ならば布パンツに替えたりしている。ご本人の排泄パターンの把握に努めてそれに応じた声掛けや誘導を行っている。トイレでの排泄が出来るように誘導は画一的ではなく、個別に取り組むようにしている。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを毎日行っており、乳製品や食物繊維の多いメニューを考え、水分もこまめに摂取出来る様に心がけている。便秘の方には、内服薬で排便のコントロールを行っている。
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現在は週に2回の入浴を実施しているが、汚染時には、シャワー浴を入れるなど対応している。入浴を拒否される方もいるので、清拭等に対応している。拒否されたご利用者が入ってくれるような時間を見つけて対応している。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の落ち着いた空間を作るために、家具やテレビなど、なるべく家で使っていた物を使用している。帰宅願望等で不穏になる方もいるので、ゆっくりと話を聞いたり、説明して落ち着くような対応を取っている。また、日中の活動量を増やすように取り組んでいる。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が処方された場合は、お薬の説明書を保管し何の薬か、作用、副作用を理解し、努めている。ホワイトボードに服薬チェック表を作り、服薬時には2人で確認をして服薬している。また、開封後の飲み忘れを防ぐ為に、服薬した袋を一度置いておき、もう一人の職員が再度確認している。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ひとりひとりが何が出来るのかを把握し家事参加をしてもらっている。レクリエーションでは歌が好きな利用者には歌を唄ってもらったり、計算やしりとりなど頭を使うレクや、リハビリ体操など幅広く取り入れている
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出しやすい季節には、ドライブの計画を立てて近隣の道の駅等に少人数ずつ外出に出かけている。また、中庭へ気分転換に出かけたりしている。鍵は出来るだけかけない用に取り組んでいる。近場の散歩等の外出はあまり出来ていない。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金は原則として預かっていない。必要物品等はご家族に連絡して持って来てもらうようにしている。
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者の希望に合わせて連絡するようにしている。
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビの音量やまぶしさ、温度などある程度調整しながら都度確認している。トイレや浴室などはわかりやすく表示し、ホールや居室入り口の掲示物は、季節感が味わえるように日々のレクリエーションで取り組んでいる。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の席は、仲のよい(話しが合う方同士)を同じテーブルにして、会話しながら食事が出来る様に工夫している。ホールにソファを配置し、気軽に休息出来る様にしている。
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族と相談し、馴染みの家具類を持ち込んだり、ベッド等の配置を使いやすいように変え、居心地よく暮らせるように工夫している。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室、トイレ、廊下には手すりを設置し、台所もご利用者の安全を考えて、IH(電磁調理器)を設置している。